

阿蘇市議会議員研修報告

○新潟県小千谷市、長岡市方面、東京都
○平成28年11月15日（火）～17日（木）

研修目的

昨年、発災した熊本地震では本市において甚大な被害を受けたことから、平成16年、新潟県を襲った「新潟中越地震」に学ぶとして、新潟県（小千谷市、長岡市）の復興状況を視察し、また、県選出国会議員に対して、熊本地震に伴う要望活動を行いました。

1日目

小千谷市

「おぢや震災ミュージアム そなえ館」 小千谷市

平成16年10月23日に発生した新潟県中越大地震、最大震度7の激震に襲われた被災地「小千谷市」は、震災のメモリアル拠点として震災の経験と教訓を後世に伝え、防災の研究や学習の場となることを目指すため「おぢや震災ミュージアムそなえ館」を整備された施設。

現地では、震災被災地の復旧、復興していく様子を、3時間後、3日後、3ヶ月後、3年後の時系列で見学し、自然災害から身を守り、家族を守り、地域を守る知恵や行動、普段の「備え」の大切さを学びました。

被災後、自主防災組織の活躍もあって、地域の人々の自助、共助が保たれたが、これは、常日頃からの行事、お祭り等の地域イベントへの参加が、自主防災活動を培ったものであるとのことでした。



担当者から当時の状況説明を受けました。

2日目

長岡市

「やまこし復興交流館 おらたる」 長岡市山古志支所

山古志村新潟中越地震復興の取り組み

中越大地震に見舞われ、全村民が避難を余儀なくされた旧山古志村。「帰ろう山古志へ」をスローガンに帰村を果たした人々の暮らしや、当時の記録写真と、関係者の証言による当時の状況を聞きました。

なお、本施設は長岡市と小千谷市が中越防災安全推進機構と整備を進めてきた「中越メモリアル回廊」と言われる、7つの施設群の一つで、震災の経験と教訓を長岡と東日本大震災の被災地の未来へ繋ぐため整備された施設です。（前日視察した「そなえ館」もその一つ。）

本交流館は、「震災復興から新たな日常へ」。中越大地震の経験を基軸としながら、「中越」から新しい動き（価値）を創り出し、地域内外に向けてアクションを起こし続けることで、様々な主体にとって「なくてはならない組織」を目指しています。

※「おらたる」…山古志の方言で「わたしたちの場所」という意味



現在、交流館の職員として働く川上さん。
後方パネルに当時8歳であった自分自身を指しています。

3日目

東京都

「地元選出国会議員に対する要望活動」 衆議院議員会館

衆議院第2会館において熊本県選出国会議員に対し、熊本地震後の復旧に関する要望活動を行いました。

- 【対応者】**
- 衆議院議員 野田 毅
 - 衆議院議員 坂本哲志
 - 衆議院議員 江田康幸
 - 参議院議員 秋野公造
 - 参議院議員 松村祥史 (秘書対応)
 - 参議院議員 馬場成志 (秘書対応)

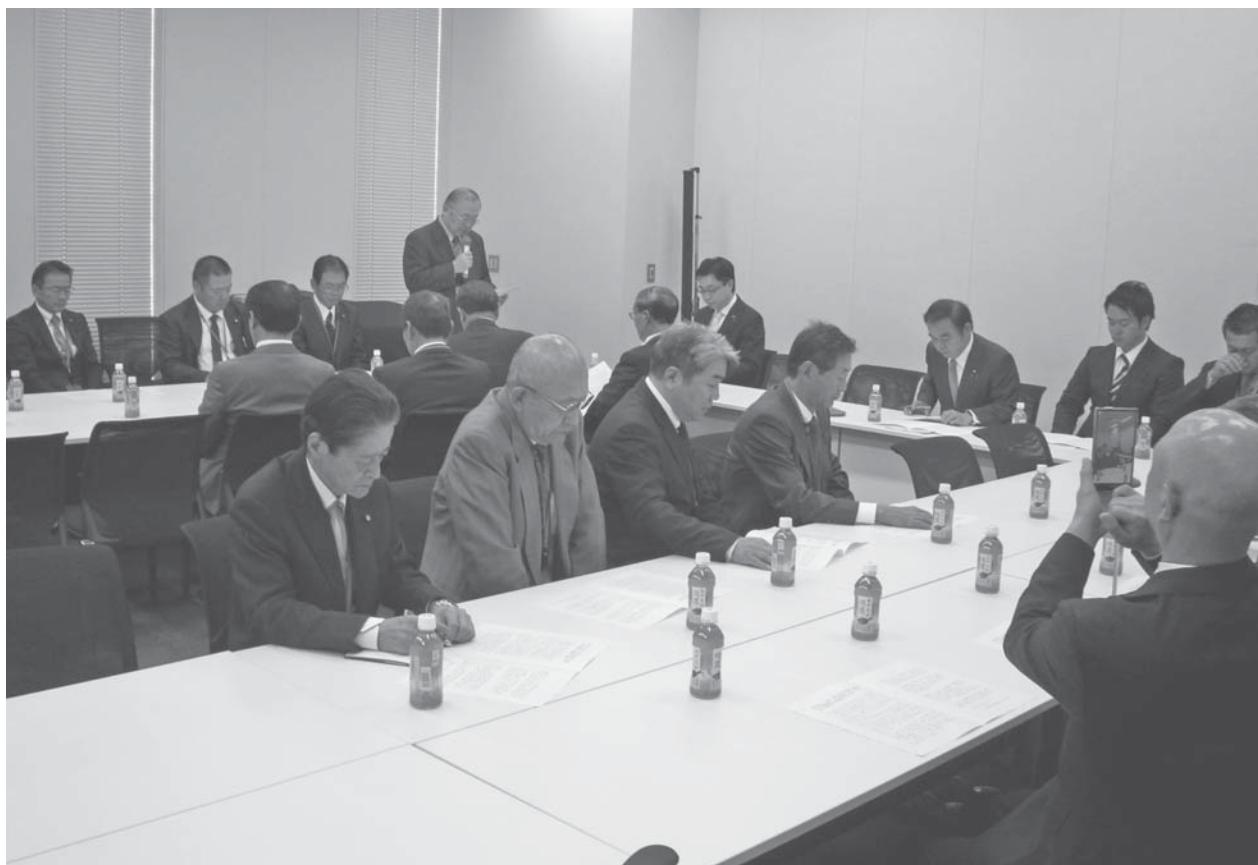
- 【要望事項】**
- 「熊本地震からの復旧・復興に係る財政措置について」
 - 「国道57号北側復旧ルートの早期建設と現道の早期復旧について」
 - 「医療環境の早期整備について」

議長より出席された国会議員に対し要望書を手渡し、上記の要望事項3項目について趣旨説明を行い、その後国会議員より要望事項について回答・見解をいただきました。

【要望事項についての回答・見解は以下のとおり】

- 熊本地震からの復旧・復興に係る財政措置については、東日本大震災では、特別な復興税を設け広く国民に負担をお願いしたが、今回の熊本震災については予備費から約7,000億円を予算化したため、新たな復興交付金等の創設は現時点では行わない。
- 国道57号北側復旧ルートの早期建設と現道の早期復旧については、現在全力で現場対応を行っており、冬場の凍結対応も万全を期すこととしている。できる限り早急に復旧ができるようしていきたい。
- 医療環境の早期整備については、難病の患者数、病名等の現状把握を行い、対応ができるかを考えていきたい。

上記の要望とは別に、熊本市内から通勤する医療センタースタッフの降雪などによる冬場の道路規制が行われた際、阿蘇市内での宿泊について、現在半額を県が負担することとなっている。残りについて財政支援を要望しました。



要望活動状況